

曲が僕には暗すぎる

京太の頭のすその毛も切ってやった。これで、散髪代が節約できる。

夕方になると、近くの学校から「家路」の曲が、鐘の音になって、静かな寒い暗闇の中に響きわたる、僕の耳にまで聞こえてくる。

それを聞く為、そっと勉強している手を休める。

その鐘の音は、静かに僕に、

「もう、休みなさい。

明日に希望を持ち、くじけては駄目だよ。」と
ささやいている様に感じる。

今もそうである。

しかし、それを聞いていると、
同様に、一種の、何かわからないが、
悲しみが僕を襲い、僕の胸を抑える。

僕はそこで、いつも、じっと、

ぼんやり、一点を見つめ、

暗い気持ちに襲われ、

何も考えられなく なってしまう。

僕には、暗すぎて、催眠術にかかった様に、
このまま眠ってしまいたくなる。
すると、あの子の姿が幻の中に現れる。

